



こども 歴史 なぜなに? 相談室



草戸千軒の人たちは犬を食べていたって、本当ですか!?

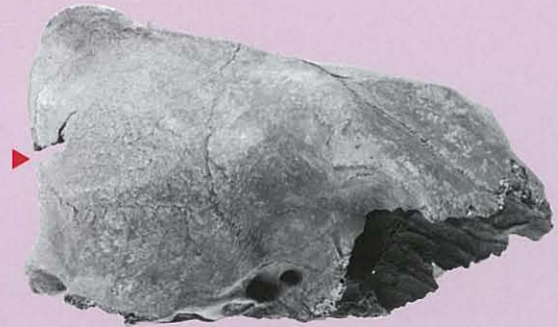
はい、本当です。草戸千軒町遺跡からは、ゴミ捨て穴からたくさんの犬の骨が見つかっていて、草戸千軒の人たちは犬の肉を食べていたことがわかりました。

仏教の世界では、生き物、とくに動物を殺すことが罪とされています。そこで、お葬式などに出される精進料理では肉は使われず、野菜や豆、穀物などが使われています。古くから多くの人々に仏教が

信仰されていた日本では、明治時代になって西洋から肉食の習慣が入ってくるまで、人々は肉を食べなかったと信じられてきました。

奈良文化財研究所の松井草さんは、草戸千軒町遺跡から出土した動物の骨を調べていて、その大半が犬の骨であることに驚きました。最初は、草戸千軒の人は犬好きで、たくさんの犬がペットとして飼われていたのだと思っていました。

ところが、調べていくうちに、頭や足・胴体の骨がばらばらになって出土していることに気づきました。死んだペットのお墓を作って埋めたのではなく、解体して埋めていたのです。そして、出土した骨をさらに細かく調べてみると、刃物による傷が付いた骨や、火で焼かれた骨があることがわかりました。



後頭部に刃物の痕跡が残る犬の頭蓋骨



刃物による傷が残る犬の足の骨

これらのことから、松井さんは、草戸千軒の人々は犬の肉を食べていたと考えました。その後、各地の遺跡で同じような資料が発見され、江戸時代以前の人々が犬の肉を食べていたことが明らかになってきました。

かつての日本に肉食の習慣があったことは、文字に書かれた記録からはほとんどわかりませんでした。おそらく、仏教の教えに反するうしろめたさから、記録には残されなかったものと思われます。私たちがゴミ捨て穴の中身を調べたことによって、犬の肉を食べていたことがわかったわけです。

(主任学芸員 鈴木康之)